

【基盤研究（S）】

人文社会系（人文学）



研究課題名 木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集

国立文化財機構奈良文化財研究所・
都城発掘調査部・史料研究室長

わたなべ あきひろ
渡辺 晃宏

研究分野： 史学（日本史）

キーワード： 日本古代史、史料学、木簡、出土文字資料、漢字、文字認識、データベース、OCR

【研究の背景・目的】

日本の木簡は、歴史を描くのに不可欠の資料となってきましたが、地中の水分に守られて保存されてきた大変脆弱な遺物で、その整理・解読・保管は多くの困難を伴います。このため、私たちが長年培ってきた木簡調査・研究のノウハウを形に残し、効率化と汎用化（地域・時代・資料）・共有化を図る必要があります。私たちはこれまでに木簡解読支援システム「Mokkanshop」と文字画像データベース「木簡字典」の2つのツールを開発し、高次化を重ねてきました。後者では東京大学史料編纂所の「電子くずし字字典データベース」との連携や、墨書土器への汎用化も実現しました。

こうして木簡を読む研究環境は格段に整ってきましたが、木簡は単なる文字資料ではありません。木簡は、文字資料として、文字を乗せる木製品として、出土状況が重要な意義をもつ考古資料として、これら3つの側面を併せもっています。こうした特性を活かし、木簡のもつ情報を総合的に引き出すためには、「文字を読む」から「情報を総合的に活用する」への転換が必要です。そこで、既開発の2つの研究ツールを踏まえ、図のような知のスパイラル（循環）を確立し、出土文字資料研究の拠点機能を構築することを目的として、この研究を行います。

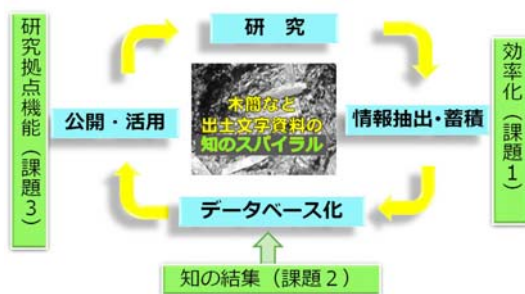


図1 研究概要の模式図 [知のスパイラル]

【研究の方法】

研究は、①木簡情報の効率的な集積方法の開発、②木簡資料に関するさまざまな知の結集、③木簡資料に関する情報や知の効率的な保管・活用システムの確立の3つの柱からなります。

①では、全国の重要な木簡の良質な画像データ（カラー・赤外線）の作成、アノテーションの理論に基づく、木簡画像に情報を効率的に付与し管理・活用す

るシステム開発を行います。

②では、未解読資料や、記号などの非文字資料に対する画像検索機能の開発、筆順を加味したオンライン検索機能の付与による文字認識精度の飛躍的向上の実現、地理情報を加味した関連資料の検索機能や、木簡研究文献データベースの構築を行います。

③では、画像検索機能の強化を踏まえ、テキストからの検索の入口としての「木簡字典」に対し、画像からの検索の入口として「Mokkanshop」を位置付け、周辺データベース群と合わせた新たな出土文字資料統合データベースを構築します。また、海外を含む他機関との連携強化で、より開かれた使いやすい利用環境を整えます。

【期待される成果と意義】

平城宮・京跡にはまだ膨大な数の木簡が眠っています。出土文字資料研究の汎用的な枠組みを作り上げ、日本の木簡の7割を調査・保管する機関に相応しい出土文字資料のセンター機能を構築し、その責務を果たしていきたいと考えます。これにより、生き生きとした歴史像構築のための素材提供が可能となり、また木簡など出土文字資料が、真に生きた文化財として、一層国民の身近なものになるものと確信します。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・奈良文化財研究所『改訂新版日本古代木簡字典』（八木書店、2013年刊）
- ・渡辺晃宏『平城京 1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く』（柏書房、2010年刊）

【研究期間と研究経費】

平成25年度—29年度
138,400千円

【ホームページ等】

- <http://hiroba.nabunken.go.jp/>
（木簡総合コミュニティサイト木簡ひろば）
- <http://jiten.nabunken.go.jp/>
（木簡画像データベース木簡字典）
- <http://r-jiten.nabunken.go.jp/>
（木簡字典・電子くずし字字典[連携検索システム]）
- <http://bokushodoki.nabunken.go.jp/>
（墨書土器画像データベース墨書土器字典）